

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270600457		
法人名	社会福祉法人 さゆり会		
事業所名	グループホームひだまりの舎	ユニット名	
所在地	長崎県五島市下大津町550-4		
自己評価作成日	平成27年2月4日	評価結果市町村受理日	平成27年3月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do">http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院3-13-11 サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	平成27年2月21日	評価確定日	平成27年3月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

H26. 10月に新規移転。海・空・島が一望できるくつろぎの空間であり、充実した設備が整っている。同一敷地内には保育園があり、毎日のように元気なかわいい園児たちを見ることができる。同施設内にはデイサービス・サービス付き高齢者住宅があり、気軽に地域の人たちと関わりを持つことができる。また、訪問看護ステーションもあり、常時医療面での密な連携がとれ、対応することができる。施設のPTと協力して、心身機能の向上と認知症状があっても日常生活の中で、「できること」「わかること」を大事にしなが、ご利用者様にとって心地よい「光・そよ風」のように、そっと寄り添うケアを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

以前のホーム名は“グループホーム大津”であり、移転に伴いホーム名も“ひだまりの舎”に改名された。“舎(いえ)”という言葉を使用しているように、ご利用者の方々の舎(いえ)であり、職員は“陰の存在で”寄り添うケアを続けている。新施設は複合型で、ホーム内を行き交う方々が増えている。日々の生活は刺激の多い生活になっており、次第に笑顔や会話が増えている方もおられ、家族も喜んで下さっている。共有空間や廊下も長く、ご利用者の歩行距離も長くなり、ご自分の意思で、ご自分のペースで、日々の日課を遂行される方が増えている。「新築移転」と言う大きな環境の変化を経験し、施設長やリーダーを始め、職員全員で結束し、新たな環境での生活をスタートさせる事ができた。大きな混乱も無く新たな生活ができており、職員も安堵されている。今後は更に、新たな環境での職員のシフトや日々のケアの在り方を見つめ直し、業務優先ではなく、理念にある“本物のケア”に繋がっているかどうかの振り返りを行っていく予定である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を職員の目のつく場所に掲示し、日々意識して実践できるようにしている。	複合施設の全職員が同じ思いでケアをするために、「私たちは、利用者様の心地よい「光・そよ風」のように本物のケアを提供します」という理念を作成した。職員は陰となり、ご本人の力を発揮できるようにしている。出勤時にパソコンで申し送りを確認し、パソコン横に掲示している理念も確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	学童保育の子供たちが、夕方になると敷地の芝生に水をまきにきてくれる。高齢者住宅の方も、一階に下りて来られ世間話をされることも多い。	開設前から、「地域の施設」である事を地域の方に説明させて頂いた。地域の方のご厚意で、高齢者住宅の2階からも見えるように、神社に桜の木や紫陽花を植えて下さり、職員も感謝の思いで一杯になった。お琴と腹話術の演奏を始め、保育園児や“チャンコ”の訪問も恒例となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同法人内の介護技術の研修の際には、家族の方にも声をかけて数名参加することができた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新施設になり、施設内の設備を運営推進会議で説明し、新たに消防防災対策を計画するにあたって、意見を参考に作成してる。	26年11月に新施設で初の運営推進会議が開催された。自治会長からヒヤリハットの報告件数の意見を頂き、法人内でもヒヤリハットの定義を明確にし、ヒヤリハットの件数が増えている。ご利用者の活動状況を動画で見て頂く取り組みも行われ、地域のお困り事の情報交換も行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村への運営推進会議案内文は直接手渡しで持っていくようにしている。生活保護を利用している方の担当者には、変化があればどの都度連絡をとっている。	新施設に移転前から、市の担当者と情報交換を続けており、運営推進会議でも介護保険制度などを教えて下さっている。サービス付住宅とデイサービス、グループホームが併設している施設が島内に無く、「職員の研修で見学させてほしい」等の要望も受け入れ、日頃から協力体制ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてのマニュアルがあり、リスク委員を中心に研修を行い、理解や意識の向上を目指している。	法人に身体拘束廃止委員があり、研修も受けている。移転後の混乱も少なく、ご利用者個々のペースで穏やかに過ごされている。「自宅に帰りたい」と言われる時や、ご本人が気になる事がある時も家族に相談し、帰宅できる日程調整を行ったり、一緒に帰るなどの対応が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連の研修があれば参加している。虐待につながるような行為については、お互い意識して虐待を生むような環境をつくらないようにしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	同法人内で権利擁護についての研修があり、学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面会時や家族会の時間を利用して、説明を行い質問があれば回答し納得していただいている。不安があればいつでも対応することを伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関へ意見箱の設置。定期的に「ご家族からの要望書」を配布している。	26年に家族に移転の説明を行い、「綺麗な所への引っ越しなので嬉しい」等の言葉を頂いた。ご利用者には、建設中に新施設の横をドライブし、「ここに引っ越してくるのよ。楽しみね」とお伝えし、心の準備を徐々にして頂いた。引っ越しの日は家族の協力もあり、衣類の整理等をして頂いた。	年4回の家族会も行われ、26年12月27日は餅つきやお鍋も楽しまれた。面会時や介護計画作成時も一緒に話し合いをしているが、今後も家族の真意を引き出し、今後の改善策を検討していきたいと考えている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人において職員提案規程が定めており周知している。また、ひだまりの舎施設内においても業務改善意見書を示している。	移転に伴い、新施設の設計や機械器具等の種類、備品関係、内装、居室の表札などを職員全員で検討した。設計図を事前に確認しながら、ご利用者が快適に過ごせる居室決めも行われた。今後も業務優先ではなく、ご利用者優先のケアになっているかを振り返る予定である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を設けており職員採用時に制度の説明を行い法人全体で取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修は参加できる人数を確保できるよう、勤務体制を調節している。興味がある研修や資格取得のため島外の研修にも参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	五島市のグループホームの計画作成担当者が集まって勉強会を行ったり、他の施設の見学会を行ったりしている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様の話しやすい環境で、ペースに合わせて話を聞くよう心掛けている。言葉だけでなく日常生活の行動からも探っていくよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	経済面や家族内での他の心配事などにも耳を傾けるよう努めている。サービス導入や変更時には説明を欠かさず行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの中で、できることを見つけていながら生活していただけるよう支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で掃除・洗濯物たたみ・料理の手伝いや盛り付けなどで出来る部分を見極めながら過ごして頂き、出来ない部分を職員がお手伝いするという関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族や自宅の事が気になるときなど、ご家族に連絡を取り、対応していただいている。通院や買い物などできる範囲でお願いし、共に支えあう体制をとっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得て、なじみの美容室や整骨院、歯科など入居前と変わらず利用されている。	ご利用者の生活歴を把握し、馴染みの場所等の把握に努めている。お歳暮が届いた時は、ご本人にお礼の電話をしてもらったり、家族と馴染みの整体や美容院、自宅に行かれる方もおられる。富江のお墓参りに職員がお連れしたり、自宅周辺をドライブし、外の景色を楽しんで頂いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に軽作業や洗濯ものたたみなどをしていただいたりしている。人との関わりをあまり好まない利用者に対しては、食事前の体操に参加していただくなど、利用者同士寄り添った生活ができるようにしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで契約が終了しても、本人様と面会を通じて様子を伺ったり、ご家族が心配事困ったことがあったらいつでも相談にのれるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	過ごし方はさまざまであり、個々に沿った形で生活できるよう努めている。決して強要はせず、何かをお願いするときは確認と本人了解を得ている。	26年度にアセスメントや介護計画兼ケア記録簿の様式を変更した。望む暮らしを把握し、生活課題に対して職員の気づきや注意事項を記入している。介護計画作成時に家族と話し合い、ご利用者の将棋相手も職員が探されている。今後も、業務優先になっていないかを振り返る予定である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族、担当だったケアマネなどに話を伺い把握に努めている。本人の馴染みのものなど、可能な限り持って来てもらうようお願いしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状態変化あれば職員からの情報をもとにアセスメント、ケアプランにつなげている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の他、主治医や訪問看護師、PT・OT・STなどに意見を伺ったり、会議で話し合い介護計画の変更や作成をおこなっている。	27年4月に介護計画作成システムが変更になる。新施設移転に伴い、ADLの再アセスメントが行われ、介護計画には水分や運動量などの目標を数値で記載し、計画に基づいた実施内容を日々記録している。モップがけや食器洗い、将棋等の楽しみや役割も記載されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画とサービス内容を記録用紙に記載しておくことで、統一したケアが行えるようにしてる。記録を参考に介護計画の見直しができるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービス、訪問看護事業所が併設されており、身体機能の向上や医療面で本人や家族のニーズに柔軟な支援が行える環境である。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	駅伝やマラソンの際には沿道で応援したり、ボランティア慰問や地域行事等への参加。また近くの地域の老人会の方たちと法人主催のペタンク大会に参加して交流をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に沿った病院を受診できるよう支援をしている。体調変化がみられた際にも、救急の場合を除き、必ずかかりつけ医への相談をしている。	通院介助は職員が行う。家族と病院で待ち合わせを行い、主治医からの説明を聞いて頂く事もできる。協力医療機関の先生の往診を受ける事もでき、ご利用者とよく話して下さっている。系列施設の看護師やPT、病院のSTからのアドバイスを頂き、看護師からは摘便等もして頂いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護時に日々の状況や変化があった事を報告している。気になる事や対応が困難なことがあれば、その日その時に対応や指示を受けるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には、本人・ご家族も安心してホームへ帰ってこれるように、面会時には医療従事者へ本人の状況を確認している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に、看取り介護指針に沿って説明と、本人・家族の意向をきいている。(意向の変更は、いつでもできることをふまえながら)看取りの際には、看取りに向けたケアプランを作成し全体で内容を把握共有し、尊厳のある看取りを実施する。	「最期はここで」と希望される方もおられる。ご利用者や家族の希望に応じて主治医と話し合い、ご利用者の精神的ケアを中心とした“看取りケア”が行われている。必要時は夜間の往診もして頂き、訪問看護師や、2階の高齢者住宅の職員とも協力体制がある。県老協の研修や訪問看護師から、看取りケアの研修を受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が定期的に普通救命講習を受講している。リスクマネジメント委員会を中心に研修等を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	オール電化であり、火を使わない設備である。新施設になり消火設備や通報設備の要領もかわったので、防災会社の職員から取り扱いの説明会を行った。地域との協力体制は、出来る範囲でこれから築いていきたい。	複合型施設全体で防災計画が作られており、26年10月の移転前に消防署の点検を受け、設備の説明をして頂いた。27年2月には消防署にも連絡し、職員全員で通報訓練が行われ、27年3月には系列施設全体で避難訓練を行う予定である。災害に備えて消防団との協力体制もあり、食料品と飲料水、カセットコンロ等を準備している。建物がオール電化であり、停電に備えて系列施設から自家発電をレンタルする事もできる。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	信頼関係をつくり、その人の立場に立って常に考え利用者様の自尊心や羞恥心・プライドを損なわない声かけ・対応に努めている。	五島の方言を使いながら、丁寧な言葉遣いに努めている。居室やトイレのドアを閉めており、排泄の失敗時などは声掛けや対応に特に注意している。職員から言われた言葉をずっと気にされる方もおられ、毎月の会議で“言葉かけで留意する事”等を共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の意思を表せる方、難しい方、日内変動がある方など、開かれた質問・閉ざされた質問などを使い分けて、自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	急な外出の希望などできる範囲で対応できるよう努めている。どうしても対応できない場合には、本人様と話し合っ、日程の予定を決定している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様が選んだ服を着れるよう支援している。職員と服を選ぶ際にも、確認をとりながらおこなっている。髪止め等を使っている方もいらっしゃる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや後片付けを一緒に行っている。食事前の献立の説明をしている。	3食とも配食事業所で調理されており、1日2回（昼分・夜朝分）配達されてくる。職員も検食しており、給食委員会で献立や食事内容などの要望を伝えている。配膳などはホームで行われ、ご利用者も手伝って下さり、食器洗浄機への食器のセット等をして下さる方もおられる。	職員のシフト上、食事中は食事介助や片づけを行い、「美味しいですか？」等の声かけをしている。食事時間を家庭的な雰囲気にする努力は続けており、今後もお好み焼きを一緒に作ったり、一緒に食べる方法を検討予定である。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人のケア記録簿に毎食の食事量・水分量を記録している。毎食後に寒天ゼリーと起床時の水分補給で無理なく1500ml以上とれるよう心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後のうがい、就寝前の義歯の手入れ、歯が残存している方は毎食後の歯磨きをしていただき、出来ない部分は職員がお手伝いしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンをいかしたトイレ誘導であったり、落ち着かない、不穏であったりという場合にはトイレ誘導の選択肢が職員持てるよう意識している。	排泄チェック表に記録し、排泄パターンを把握している。布の下着を着用し、排泄が自立している方もおられる。移転後はトイレが3つに増え、ご利用者のトイレ待ちも無くなっている。入院時に紙パンツを使用した方も、職員の声かけで布の下着に戻された方もおられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の水分補給、食後の寒天ゼリー、好みの飲み物で水分量の確保。車椅子の方には歩行訓練の実施や食事前の体操。また訪問看護師と相談しながら予防している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の配置上時間帯に関しては難しいところもあるが、基本本人の意思を尊重している。	ゆっくり入浴して頂くため、1日の入浴は3名程にしている。入浴を拒む方も、声かけの工夫や職員が交代して声かけし、最低でも3日に1回は入浴できるようにしている。入浴時は職員との会話を楽しみ、ミソ湯等も行っている。体調に応じて、通所の特浴を利用する事もできる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室での休養を希望される方は、ゆっくり休むことができるよう、室温や照明など一人一人にあわせて調節している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の受診記録簿に薬局からいただく処方箋の内容書類を保管している。処方の変更があった際には、デスク前に掲示し全員が確認できるようにしている。訪問看護師への伝達も実施。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	モップがけや食器洗いなど個々の力に合わせた役割を持っていただき、唄やハーモニカ、将棋や塗り絵など、またデイサービスへ行くことにより気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	帰宅願望があれば、ご家族と連絡をとり同行していただいたり、自宅で待ち合わせするなどして希望に応えられるようにしている。	移転前は毎月遠出をされており、島内の花見を楽しまれたり、海を見ながらドライブをされていた。移転後も、誕生日のお祝いとして、ご本人から行きたい場所や食べたい物などの希望を伺い、職員が1日付き添い、外出支援を行っている。初詣は隣の神社に行く事ができた。	新施設に馴染む事に力を注ぐと共に、冬の季節に入った事もあり、移転後は外出の機会が減っていた。少しずつ周辺の散歩コースを見つけており、職員の勤務シフトを見直し、外出の機会を増やしたり、隣接する保育園児との交流を楽しみたいと考えている。



自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様ご家族と話し、本人様が管理できる範囲でのお金を所持していただいている。散髪や買い物で使っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様が希望している場合や、ご家族などからの贈り物が届いたときには電話をかけ、直接会話をさせていただいている。年賀状もご本人が一言書いて頂くよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	植物を置いたり、季節に応じた飾り付けを行い、季節感を持っていただくようしている。時間帯に応じて室温や明りの調節を行い、快適に過ごせるようにしている。	金魚も一緒に引っ越しし、ご利用者が餌やりをされている。共有空間が広くなり、ご利用者は思い思いの場所で過ごされている。ホーム内の廊下は他の系列の職員の通路でもあり、色々な方が挨拶を下され、刺激の多い生活になっている。26年度に地域連携委員会ができ、敷地内に花植えを行い、地域の方に楽しんで頂いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間が食道とデイルームに分かれている為、利用者が自分の好みの場所で過ごせるようになっている。デイサービスへ遊びに行ったりされることもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	新規移転により、ご家族が不足しているものは家から持って来ていただいたり、購入していただいたり、また衣替えなど整理をしてくださり、本人・ご家族様に過ごしやすい居室づくりをしている。	全ての居室に電動ベッドを備え付けている。引っ越しの時は家族も協力して下さり、衣類の整理整頓などをして下さった。新しいホームは押入れが無く、居室が広く使えており、家族が洋服掛け等を移転時に購入して下さった。家族の写真を飾ったり、居室でラジオを聞かれる方もおられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは居室のすぐ近くになっており、わかりにくい方にはわかりやすいように目印をつけてある。共有空間が中央にあることで見守りが行きやすい。		